

NPH全社員総会、神戸で開催

■ ECL、26年に500トン吊新造船

イースタン・カーライナー（ECL）が参画しているNPHホールディングスグループは10日、神戸ポートピアホテルで全社員総会を開催した。

冒頭、NPHホールディングスの長手繁社長（ECL社長）があいさつ。「グループ各社の事業は順調に成長している。事業が多様化し、規模も拡大し、シナジーを生む可能性も広がっている。グループにない事業であっても、これからの社会にとって必要とされる事業を社員で創造してほしい。そのチャレンジを後押しできる会社でありたいと思っている」など述べた。

NPHの高山浩司副社長（ECL副社長）は「グループは成長し、発展をとげてきた。みなさんの努力と協力によるもので心から感謝している。だが成長はこれで終わらない。進化し続けなければいけない。そのためには失敗を恐れず、果敢に挑戦し、前向きな姿勢で未来に向かって進むことが必要だ」と話し、続けてグループ業績など語った。

自動車販売などグループ各社の事業概要が紹介され、ECLは神谷晋吾取締役が説明した。ECLグループの2023年度連結業績は、売上高が772億円、経常利益は213

億円だった。運航するのは自動車船と在来船で、昨年4月から今年4月末引渡しまで新造船5隻をリプレース。「環境規制を満たしたエコシップだ」とした。また、重量物対応の新造船を計画して、長期用船契約を締結したことも明らかにした。2026年初旬に運航開始予定。250トン吊りクレーン2基を搭載して、最大500トンを吊ることができ、同社にとって過去最大能力となる。船艙は3層フレキシブルデッキを採用する。

ECL子会社のECLエージェンシーの坂東博仁社長は、中古車輸出事業など紹介した。主要港で運営する自動車専用ターミナルが75ヘクタールに及ぶことや、木更津に新事務所を開設して東京湾周辺の機能を集約したことを説明。昨年4月、北九州埠頭会社から譲渡された新門司マリーナへの取り組みについては、今後のモーターボート輸出入事業の足掛かりとしたい意向を示した。EVについては、PDI（出荷前点検）センターを新門司港に建設予定で、内航海上輸送網の構築も図る。「中古EVの検査システム構築と安全輸送を実現する」。先頃、紺綬褒章



神戸で開催

を受勲した。

特別講演として、HIROTSUバイオサイエンスの広津崇亮社長が「線虫がん検査」について話した。総会後の懇親会では、元F1レーサーの片山右京氏が乾杯の音頭をとった。片山氏は現在、自転車チームを率いており、ECLグループ内で自転車部品など取り扱っているトライスポーツと縁があることから壇上に立った。「長くたくさんの人に応援していただき、世界の扉をノックするチャンスをもたらした。セナやシューマッハといった天才がいて、自分もいつか世界で一番になるんだと努力したが1位になることはできなかった。いまは若い人を応援する立場だ。ツール・ド・フランスで日本チームで世界一位になることを公言している。ブレずにチャレンジを続けたい」と述べた。